

政策番号	1	政策分野	環境
------	---	------	----

基本方針	豊かな森林資源、伝統文化、進取の気性と創造の力など、京都のまちの特性をさらに高め、京都のまちがもつ「市民力」や「地域力」を総結集し、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」の実現をめざす。
------	---

担当局	環境政策局	共管局	
-----	-------	-----	--

政策に関する 主な分野別計画等	京都市環境基本計画2016～2025, 京都市自動車環境対策計画(2011～2020), 京都市地球温暖化対策計画〈2011-2020〉, 京都市エネルギー政策推進のための戦略, 京都市循環型社会推進基本計画(2015-2020)
--------------------	---

政策の評価

1 客観指標評価

政策の客観指標評価		23年度 評価値	32年度 目標値	28 年度	29 年度	30年度評価				
						前回値	最新値	目標値	達成度	評価
1	温室効果ガス排出量削減率(1990年度比)(%)	11.1	25	e	e	3.2	3.9	25	15.6%	e
2	エネルギー消費量削減率(2010年度比)(%)	7.1	15.0	b	b	12.0	13.2	9.0	146.7%	b
3	本市が受け入れるごみ量(トン)	49.7万	39万	a	a	41.7万	41.3万	41.0万	99.3%	b
				c	c					c

施策の客観指標評価		評価		
施策番号	施策名	28年度	29年度	30年度
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全(2指標)	a	a	a
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現(3指標)	b	a	a
0103	ごみを出さない循環型社会の構築(3指標)	a	a	a
(3施策平均)		a	a	a

政策の客観指標総合評価 (政策の客観指標評価: 施策の客観指標評価=1:0.5)	28年度	29年度	30年度
	b	b	b

2-1 市民生活実感評価

番号	設問	評価		
		28年度	29年度	30年度
1	京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかけがえのないものと実感している。	c	c	c
2	「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい環境が保たれている。	b	b	b
3	省エネや省資源に取り組むひとや、徒歩、自転車、公共交通機関を利用するひとが増えている。	b	b	b
4	太陽光発電や使用済み天ぷら油の燃料化など、環境にやさしい技術やエネルギーの活用が進んでいる。	c	c	c
5	京都では、環境にやさしい行動を当たり前のこととして実践するひとや事業者が増えている。	c	c	c
6	マイバッグやリサイクル製品など、ごみを出さないようなくらしと事業活動が広がっている。	a	a	a
7	ごみを分別して出せる拠点が身近にあり、ごみのリサイクルが進んでいる。	a	a	a
政策の市民生活実感調査総合評価		b	b	b

2-2 政策の重要度(27政策における市民の重要度)

28年度		29年度		30年度	
順位	%	順位	%	順位	%
4	87.6%	5	88.0%	3	91.8%

3 総合評価

B	政策の目的がかなり達成されている		
【客観指標総合評価】 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。		29年度	B
【市民生活実感調査総合評価】 ☒ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。			
【総括】 ・客観指標について、温室効果ガス排出量は、電気のCO2排出係数の悪化などの外的要因が大きく影響することから、e評価となったが、エネルギー消費量は、市民及び事業者の節電、省エネ等の取組の成果により着実に減少し、ごみ量についても、着実に減少していることから、客観指標総合評価はb評価となった。また、市民の実感は、これまでの取組が徐々に浸透していることから、継続してb評価と肯定的な評価を得ており、それらを総合的に勘案すると、この政策の目的は、かなり達成されていると評価する。		28年度	B

今後の方向性の検討

<この政策を構成する施策とその総合評価(客観指標評価＋市民生活実感評価)>

施策番号	施策名	総合評価		
		28	29	30
0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全	A	A	A
0102	低炭素型のくらしやまちづくりの実現	C	B	B
0103	ごみを出さない循環型社会の構築	A	A	A

<今後の方向性>

①自然環境とくらしを気遣う環境の保全

・エコカーへの転換や生物多様性の保全、大気・水質等の環境調査、公害発生源に対する調査・指導を行うとともに、「京都市環境教育・学習基本指針」に基づき、あらゆる場において、生涯にわたって中断なく、ライフステージに応じた、質の高い取組が実施されるよう、環境教育・学習の取組の促進を図る。

②低炭素型のくらしやまちづくりの実現

・エネルギー政策推進のための戦略(平成25年12月策定)に掲げる「原子力発電に依存しない持続可能なエネルギー社会」や京都市地球温暖化対策計画(平成29年3月改定)に掲げる「持続可能な発展が可能となる低炭素社会」、また「持続可能な都市文明の構築を目指す京都宣言」(平成29年12月発表)に掲げる「2050年の世界のあるべき姿」の実現に向け、徹底的な省エネルギーの推進や再生可能エネルギーの飛躍的普及拡大、産学公連携によるイノベーションの推進を図るとともに、環境にやさしいライフスタイルへの転換に向け、地域ぐるみで取り組む。

③ごみを出さない循環型社会の構築

・「2R」と「分別・リサイクルの促進」の2つを柱とするごみ減量施策を推進し、資源・エネルギーの有効利用と環境負荷の低減、さらには「もったいない」や「しまつ」といった京都らしいライフスタイルなどの定着を図り、市民、事業者とともに、全国モデルとなる持続可能な循環型社会の構築に取り組む。

④総括

・以上の取組を通じ、京都の市民力・地域力を結集し、京都議定書誕生の地として、「DO YOU KYOTO?(環境にいいことしていますか?)」を合言葉に、自然環境を気遣う「環境にやさしいまち」を目指す。

政策名	1	環境					
指標名	温室効果ガス排出量削減率〈1990年度比〉（％）						
担当部室	地球温暖化対策室	連絡先	2 2 2－4 5 5 5				
1 指標の説明							
京都市域からの温室効果ガス（二酸化炭素，メタン等）年間排出量の，1990（平成2）年度比における削減率							
2 指標の意味		3 算出方法・出典等					
自然環境を気遣う低炭素社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		{1－対象年度排出量(万t)/1990年度排出量(万t)} × 100					
4 数値							
10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠				
	11.1	25	京都市地球温暖化対策条例，京都市地球温暖化対策計画<2011－2020>				
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値			
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度	
数値	3.2	3.9	0.7%増	25	京都市地球温暖化対策条例及び京都市地球温暖化対策計画<2011－2020>に掲げた平成32年度達成目標値	15.6%	
	全国順位	中長期目標			備考	算定に用いるデータの公表時期の関係から，28年度の値が最新となる。	
	数値	目標年次	達成度	根拠			
数値	40%	42年度	9.8%	京都市地球温暖化対策条例			
5 評価基準				6 基準説明		7 評価結果	
最新数値が a：25%以上 b：18.75%以上25%未満 c：12.5%以上18.75%未満 d：6.25%以上12.5%未満 e：6.25%未満		京都市地球温暖化対策条例及び京都市地球温暖化対策計画<2011－2020>に掲げた，平成32年度までの排出量25%減達成（削減率25%以上）をa評価とした。また，0%（平成2年度から全く削減できなかった場合）～25%を等分し，b～eの4段階評価とした。		28	29	30	
				e	e	e	

指標名		エネルギー消費量削減率〈2010年度比〉（％）		
担当部室	地球温暖化対策室	連絡先	2 2 2－4 5 5 5	
1 指標の説明				
京都市域における年間総エネルギー消費量の2010（平成22）年度比における削減率				
2 指標の意味		3 算出方法・出典等		
原子力発電に依存しない持続可能なエネルギー社会の実現に向けた進捗状況を示す指標		{1－対象年度消費量(TJ)/2010年度消費量(TJ)} × 100		
4 数値				
10年後(平成32年度)の目標値	平成26年度評価値	平成32年度目標値	根拠	
	7.1	15	京都市エネルギー政策推進のための戦略（平成25年12月）	
	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値
	27年度	28年度		数値根拠達成度
数値	12.0	13.2	1.2%増加	9.0平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値146.7%
	全国順位	中長期目標		
	数値	目標年次	達成度	根拠
数値	15%	32年度	88.0%	京都市エネルギー政策推進のための戦略
5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果
最新数値が a：15％以上 b：(1.5×t) ％以上 1 5％未満 c：(0.75×t) ％以上 (1.5×t) ％未満 d：0％以上 (0.75×t) ％未満 e：0％未満 ※ t＝基準年（2010年度）からの期間		平成32年度までの10年間で15％削減する目標であるため、単年度目標は、単純計算で単年で1.5％ずつ削減すると考える。 例) 5年目では7.5％(=1.5％×5)が目標値となる。 評価年度で、平成32年度目標を上回る場合をa、単年度目標以上である場合をb、単年度目標の半分以上の場合をc、半分未満の場合をd、基準年より削減されていない(0％未満)の場合をeとする。		282930 bb b

政策名	1	環境
-----	---	----

指標名	本市が受け入れるごみ量（トン）		
-----	-----------------	--	--

担当部室	循環型社会推進部	連絡先	2 1 3 - 4 9 3 0
------	----------	-----	-----------------

1 指標の説明

本市が1年間に受け入れるごみの量

2 指標の意味

循環型社会の構築に向けた進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

出典：事業担当課調べ

4 数値

10年後(平成32年度)の目標値	平成23年度評価値	平成32年度目標値	根拠	
	49.7万	39万	京都市循環型社会推進基本計画(2015-2020)	

	前回数値	最新数値	推移	単年度目標値		達成度
	28年度	29年度		数値	根拠	
数値	41.7万	41.3万	0.4万トン減	41.0万	平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	99.3%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		39万トン	32年度	94.1%	

5 評価基準		6 基準説明		7 評価結果	
最新値－目標値が、 a：0トン以下 b：0トン超～2.1万トン以下 c：2.1万トン超～4.2万トン以下 d：4.2万トン超～6.2万トン以下 e：6.2万トン超		当年度の目標値（41.0万トン）を達成した場合をa、京都市循環型社会推進基本計画の基準年度（平成25年度）のごみ量（47.2万トン）を超えた場合をeとし、b～dは等間隔（約2.1万トン間隔）で基準を設定。評価基準は、毎年、当年度の目標値により変更される。		28	29
				a	a
					30
					b